

「花たちは、まさに私のたどった道の道標」

〔堀文子画文集 花〕
JTB 出版事業局 1982年 より〕

没後5年 いのちの鼓動を描く
—日本画家・堀文子—
2024.4.20[土]—6.9[日]

日本画家・堀文子(大正7・1918年～平成31・2019年)の生涯は、花とともにありました。

子どもの頃、父が大事にしていた庭の牡丹。戦火をくぐり抜け、見事に芽吹いた母の嫁入りの椿。夫の病床を見舞う路傍には、キブシが咲いていました。

堀文子は42歳のとき、外交官であった夫箕輪三郎を亡くしますが、世界中を旅して心機一転、自然豊かな制作環境を求めアトリエを青山から大磯へ、さらに設けた軽井沢で多くの時間を過ごしました。

《冬野の詩》は深閑とした白銀の森を背景に、枯花を配しています。堀文子は冬の軽井沢に暮らすうちに、枯枝にも新しい芽生えが宿り花を咲かせる。死と生は繋がっていることに気づかされました。

堀文子が82歳で自らヒマラヤに登り、描き上げたのが《幻の花ブルーポピー》です。ブルーポピーは、



棘で身を守りながらも、花びらは薄絹のように繊細。この花に毅然と生きる人の姿を重ねました。

堀文子は同作発表の翌月、病に倒れますが奇跡的に回復しました。その後も、顕微鏡ごしの微生物や水中生物など、新しい題材から次々と作品を生み出しました。95歳で描いた《名もなきものシリーズ どくだみ 露草 姫小判草》の主役は、庭や道端の草花です。その地に根ざす覚悟がある。堀文子にとって、小さな花たちは生きる力でした。

堀文子の花の絵が愛され続けるのは、いかなる環境でも生き抜き、華麗な姿を魅せる花への、作者の感動や敬意の念が伝わるからでしょう。堀文子は、孤高の境遇に身を投じ、自然と一体となる感覚で描き続け、自らを職人と称しました。現役の「職人」を全うし、花と生きた百年をたどります。

(学芸グループ長 河内えり子)



上から
《名もなきものシリーズ どくだみ 露草 姫小判草》
平成25年(2013)

《幻の花 ブルーポピー》
平成13年(2001)

《冬野の詩》
昭和63年(1988)

自然派アーティストが描く 生きものたちの 命の輝き

村上康成の世界展

うみ・やま・かわに抱かれて

—絵本作家のワイルド・ライフ・アート—

2024.6.15[土]—8.4[日]

『ピンクがとんだ日』原画 2014年



世代を超えて人々に親しまれる自然派アーティスト・村上康成さん(1955年生まれ)。絵本作家としてのキャリアは41年目を迎え、これまでに約230冊の絵本を生み出してきました。

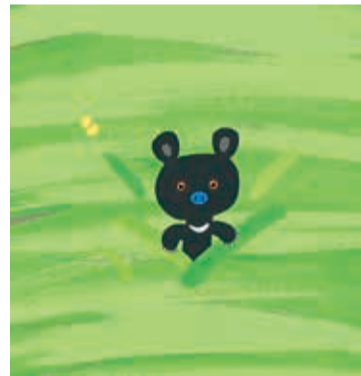
村上さんは岐阜県出身。豊かな自然に囲まれて育ち、幼い頃から遊び場はいつも水ぎわでした。小学3年生の時に父親に連れられていった付知川できらきらと輝くアマゴに出会い、すっかり心を奪われます。その後、魚釣りはライフワークとなり、大好きな自然の中で培われた感性と経験が、村上さんの創作の原点となりました。

デビュー作『ピンク、ぺっこん』(1983)をはじめとする「ヤマメのピンク」シリーズは、村上さんの代表作です。ピンク色のヒレがすてきなヤマメのピンクを主人公に、「食べる・食べられる」の自然界の生態系が、躍動感のあるページ展

開でドラマチックに描かれます。シリーズ5作を通してピンクの生涯を追いながら、生きもの命のめぐりを伝えます。

本展のメインビジュアルで最新作『くまくんです。』は、村上さんが山の中で出会った子ぐまがモデ

『くまくんです。』表紙原画 2023年



ルです。春になり冬眠から目覚めたくまくんが、母ぐまと別れ、さまざまな山の仲間たちと出会い、成長していきます。草むらから「がさつ」と顔を覗かせる姿が、なんともユーモラスな作品です。

自然やそこに住む生きものたちへ優しい眼差しを向け、深い親しみを込めて表現し続ける村上さんの世界。シンプルで色鮮やかな空間の中に、作家が向き合い続けてきた生きものたちの命が輝きます。本展では約230点の作品でこれまでに手がけた創作の数々をご紹介しますので、ぜひ会場でご覧ください。(学芸グループ 山本貴子)

『ピンクとスノーじいさん』原画 1985年



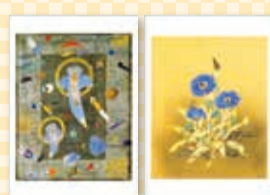
ミュージアムショップ

「村上康成の世界展」(6/15-8/4)

「いのちの鼓動を描く—日本画家・堀文子」(4/20-6/9)



トートバッグ
「ユートピア」
1,980円



ポストカード
各110円

扇子「桔梗」
3,850円



A5クリアファイル
各330円



一筆箋
440円



ミニタオル
「オコジョ」
550円



ポストカード「ママルズ・ジャパン」
(16種類入) 1,650円



マスコット
「ヤマメ」
1,100円

プリマグラフィー額絵
「この星の上で」 16,500円

